

すべての保健師に捧げる実践の記録

【評者】森岡幸子 大阪府国民健康保険団体連合会保健師

東日本大震災後の健康調査から見えてきたこと
大槌町 保健師による
全戸家庭訪問と被災地復興
村嶋幸代、鈴木るり子、岡本玲子（編著）

東日本大震災後の健康調査から見えてきたこと

大槌町 保健師による 全戸家庭訪問と 被災地復興

◎ 村嶋幸代・鈴木るり子・岡本玲子（編著）



明石書店

定価 2730 円 (本体 2600 円 + 税 5%)
明石書店 (Tel.03-5818-1171)

本書は、甚大な被害を受けた岩手県大槌町で活動した保健師の全身全霊のメッセージに端を発した実践の記録である。鈴木るり子氏（岩手県立看護短期大学、元大槌町保健師）の「被災者の健康状態の悪化、自殺が心配、津波で助かった人を避難所で命を落とさせてはいけない。そのために健康管理台帳を復活させる必要がある」、だから「全戸家庭訪問をしたい」「全戸家庭訪問すべき」とする判断と行動には、地域にはりついて住民の中で公衆衛生活動を実践してきた保健師の信念がある。これこそが保健師魂である。

鈴木氏に呼応して全国からボランティアで集結した保健師の多くは、保健師教育に携わる保健師や現場の保健師であった。彼、彼女らが部門の壁を越え、行政の壁を越え集結して全戸家庭訪問を行ったことの意義は大きい。

人々の健康問題に関わって公衆衛生活動を担う専門職保健師は、現地・現場に出向いて活動する。それは自衛隊や警察や消防などと同様、高い使命感をもった専門職業人としての意識と、保健師という国家ライセンスへの国民の認知と信頼がなければ成り立たない。保健師による全戸家庭訪問の意義がここにある。

今回の全戸家庭訪問の意義は、災害や感染症など大規模健康危機事象においては必要不可欠な健康被害などの全容把握を、短期間にマンパワーを集結して実現したことにある。大規模な調査になるとマンパワー集結は容易でない。今後の被災地の健康支援調査などのモデルとなるものである。

さらに、全戸家庭訪問の計画から実施、分析結果、復興への提言に至るまでを読み込んでいくと、さすがに教育に携わる知識層によるレベルの高い報告書となっている。医療・保健・福祉の状況など社会資源の配分や住民の健康行動など、平時から被災後の公衆衛生活動の多くの課題を網羅している。

今、保健師の住民への相談支援の力量が問われている。基礎教育や現任教育が課題となっているなかで、家庭訪問とはどういうことなのか、住民のいのちや暮らしを守ることがどういうことなのか、本書は保健師を育成していくための多くの教示にあふれた実践書となっている。

本書を読んでいると、東日本大震災被災地である石巻工業高校野球部の阿部翔人主将による、今年の選抜高校野球開会式での宣誓が重なった。「人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは苦しくて辛い」。東日本大震災で被災した人々の苦しくて辛い生活の長い道のりに寄り添って、全戸家庭訪問の精神が全国の保健師に受け継がれていくことを確信した。